

経営改善に向けた乳房炎対策の取組事例

北部家畜保健衛生所

○佐藤 葵・古澤 剛・山下太郎

近年、飼料価格や資材価格の高止まりにより、全国的に酪農経営は厳しい状況にある。管内農家においても、特に県内有数の大規模酪農家(A農家)では、早急な経営改善が求められている。

今般、A農家における経営改善を目的とした乳房炎対策を実施したので報告する。

1 取組

1) 現状把握及び課題の抽出

山口県酪農農業協同組合、全国酪農農業協同組合連合会、山口県農林総合技術センター畜産技術部(以下、畜産技術部)及び当所による現地確認を実施し、ボディコンディションスコア(BCS)及びルーメンフィルスコア(RFS)の評価や、生産状況の聞き取りを試みた。

さらに、上述の関係機関等を交えた経営検討会を実施し、経営状況を確認した。その結果、経産牛1頭あたり乳量は県平均を上回っているものの、乳房炎に起因した除籍頭数及び体細胞数の増加が、経済損失に関わる要因の一つと判明した。

2) 課題に対する原因究明

乳房炎の発生と体細胞数の増加の原因と考えられる敷料と搾乳時の汚染状況を確認するため、検査を実施した。

まず、乳房炎の発生には牛舎環境の関与が大きいと見られるが、A農家では戻し堆肥を敷料に利用していることから、戻し堆肥原料における大腸菌群数を測定した。

次に、体細胞数の増加は搾乳環境に起因することから、畜産技術部と共同で清拭後の乳頭壁におけるアデノシン三リン酸(以下、ATP)検査を実施し、搾乳従事者毎の数値を測定した。

3) 検査結果及び指導内容

堆肥原料(消石灰混入前)の大腸菌群数が少ないことから、敷料の品質は問題ないと推察された。A農家では、部分的に牛床の水分量が高いため、敷料交換頻度の増加を提示した。

一方、ATP検査では、いずれの従事者においても高い数値であったことから、農家全体での搾乳手技の見直しを求めた。このことから、乳頭及び搾乳用具の消毒や、作業動線の見直し等、衛生管理の徹底並びに省力化を指導した。

2 成果と今後の取組

上述の対応を行うも、夏季にかけて乳房炎による除籍頭数及び体細胞数ともに、増加傾向が続いた。成績改善には中長期的な対応が必要であることから、今後は、通年の体細胞数20万/mlを目標に、現地確認や経営検討を活用した指導を継続する。

併せて、夏季での乳房炎の発生には暑熱による影響も考えられることから、寒冷紗の設置、送風機の適正配置や増設などを提案し、来シーズンにおける暑熱ストレスの低減を図り、搾乳衛生と環境の両面から乳房炎対策に努めていきたい。